



信号もコンビニもないこの小さな島へ赴任したのは昨年四月のこと。その後、約一年半が過ぎ、島の暮らしにもだいがなじんできたところです。この島は大半が里山で、観光地化もされておらず、時間がゆったりと流れるのを実感できます。集落は港の周りに密集しており、島民のほとんどが顔見知りで結び付きは強く、みんなが助け合って生活しています。

### 世間話に花咲く

さて、そんな島のちよつど真ん中にある佐久島診療所はアットホームな雰囲気にあふれ、待合室はいつも世間話に花が咲いています。患者さんは血圧が高いとか、足腰が痛いといった長

# ゆっくり患者と向き合おう

年付き合っていく病気が大多数で、たまの救急患者さんがなければ、のんびりとした雰囲気の中で診察できます。一人一人の患者さんの話をゆっくり聞ける

良さだと思えます。また、島内を歩けば、畑仕事や漁の準備をする患者さんと顔を合わせ、その場で健康相談をするといったこともしばしばです。「じゃ、また調子悪かったら診療所行くぞ」というやりとりも珍しくありません。

基本的には皆さんお元気で、八十歳、九十歳になっても、アサリかきや畑仕事を黙々とする姿を見ていると、生涯現役で働いていることこそ、人生最後まで元気でいられる秘訣ひつこのでは、と感じさせられます。

### よりよい未来へ

ところで先日、島で高齢者介護に関するアンケートを行いました。高齢化が著しい中、体が動かなくなっても島にいたいと答えた人が約半数を占めました。実際にそうできると思っている人は、その中の三割にも満たず、やはり皆さんの不安がうかがわれました。

離島という環境は、家族が本土に住んでいたり、福祉サービスの利用が難しかったりと、たださえ大変な介護に、さらに大きなハンディを負っています。佐久島での高齢者介護が今後どうあるべきか、島民、行政と一体になって、よりよい未来を見つけていきたいと考えています。

(次回予定は東京都)

まつおか **松岡** あつし **篤史** 22期生、1999年卒



島民と本土をつなぐ重要な足となっている定期船(佐久島西港)

## 一色町佐久島診療所

【私の勤務地】愛知県の三河湾に浮かぶ佐久島。その島内唯一の医療機関。医師1人、看護師1人、事務1人で構成。1981年から自治医大卒業生の派遣が続く。本土から船で約20分の距離に位置する島で、人口は約320人、うち65歳以上が約50%を占める。